

## 事業名 ぷらっと講座

《拠点》758 キッズステーション

対象 乳幼児親子

### 事業内容

気軽に参加でき、新しい出会いや仲間づくりのきっかけとなる講座を開催しています。

「てあそびうたで あ・そ・ぼ♪」

ちょっとした手遊びや触れ合い遊びを通じ、親子での遊び方を学びながら、友だち（親同士・子ども同士）づくりを行う。

「ママのための美姿勢&ウォーキング」

母親の子育てにおけるストレスの軽減と解消を目指す。

「みんなハッピー～パパのスマイルプロジェクト～」

絵本の読み聞かせやからだ遊びの手法を通して、父親と子どもと一緒に楽しむ場づくりを行う。

「ママのおはなし・ふれあいサロン」

月齢の近い子どもを持つ母親同士の出会いの場を提供する。

### 事業のポイント

- ・子どもが自身の気持ちに気づき表現できるようになる
- ・子ども同士が関わりをもつ
- ・大人が子育てに対して前向きになる
- ・大人が子どもの育ちに気づき理解する
- ・大人が子どもと関わる楽しさを発見する
- ・子育てにおけるストレスを上手に発散し解消していく

こんな力を身につけてほしい：担当者の願い

### 子ども

- ・自分の思いや気持ち表現する力

### 大人

- ・ありのままの自分を受けとめる力（自己肯定感）
- ・自分の育ちを理解する力
- ・子どもをひとり人間として尊重し、関わり合う力
- ・社会の一員として社会に関わる力
- ・自分の内面を見つめる力（「ママのための美姿勢&ウォーキング」）

## エピソード

### 「てあそびうたで あ・そ・ほ♪」

ある日、とても久しぶりに講座にやってきてくれた親子がいました。最後にきたのは数ヶ月前、おそらくその日が3回目くらいの参加でした。久しぶりの参加にも関わらず、その子は、私が声をあげるたびに、「いったい次はどんなことをするんだろう。」と私の目をじっと見つめ返してきます。講座全体の流れを感じ取り、パターンを読み取る力や見通しをつける力の片鱗が見えました。かなり時間が空いていて、なおかつ数回目の参加にも関わらず、このような反応を見せてくれたということは、「きっとこの子にとって、この講座が心の中に引っかかっている、覚えていてくれていたんだな。」と感じました。子ども自身が「参加しようという意思」を持ち、それを「私を見つめることで表現」している。そんな場面に出会い、子ども自身の育とうとする力を感じることができました。

### 「子どもの気持ちを受容する」

講座の中で、子ども同士で物の取り合いになることがよくあります。お母さん同士はどうしても「勝手にとっちゃダメでしょ。」と止めに入ってしまうのですが、そんな時に私たちが「〇〇ちゃんも、おもちゃ使いたいもんね、遊びたいもんね。」といった投げかけをします。そうすると、「あーそう言えばいいんですね！」とお母さんから反応をもらうことがあります。どうしても、周りに迷惑をかけちゃいけないという思いが先行してしまいがちですが、子どもは迷惑をかけるもの。物の取り合いを通じて、お互いにコミュニケーションの学びをしているのです。この場においては、子ども自身の「遊びたい気持ち」「使いたい気持ち」を大切に、そのような機会を奪わないようにしていきたい。そして、またそれができる場を作っていきたいというメッセージを投げかけていこうと思っています。

